1971年 12月7日（火曜日） 野次馬新聞 第一号

学費値上げ決定！だが、その裏側は？

独占スクープ

野次馬新聞

所 野次馬軍団明大細胞機関紙
行 野次馬新聞社
発 野次馬

※競馬の新聞ではないのだ

我が野次馬新聞特捜班は、学費値上げ決定と、それにともなう重大な面白い情報を手に入れた。学費値上げは決定したのだ。ではその理由は？「赤字があってネェ」というのがいつもの事ながら、その理由らしい。赤字の額は2億5千万ほどあるという。そして、「最大限努力した」が……教育研究に支障をきたす場合は学費改定を考慮せざるを得ない」と経営改革委員会の答申に書いてある。（傍点筆者）読者諸君は、この文章をよく覚えておいて欲しい。単なる学校側は学費値上げをしないために最大限努力しているのだろうか？それが問題だ。このたび、最大限努力しているのか、という問題につきまして慎重に検討を重ねてきましたる結果、我が野次馬新聞社としては、「それはウソである」という結論に達したのであります。例えば「研究費の問題」　これは教授に6万円支給されて、研究活動に役立てるためのものなのだが現実はそうではない。①商学部の田中某教授の場合の彼は理事であるのいくらも使のとない西本を買ってきて　それを一万円もったことにして研究費を浮かせた。②学科法の松細某教授の場合。北海道に空旅行の実際は行っていないのに事にして研究費を浮かせている。③A教授の場合。奥さんと2人で温泉へ旅行に行く。④B教授の場合。オデン屋に飲みに行く。⑤C教授の場合。自分のビミのビミ事に自分の仕事をアルバイトさせた事にして自分の懐に金を入れる、という具合である。こんなことをこっそり最大限の努力をしているとは？！「研究費」に関しては廃止しろという意見が私達の間に強いにもかかわらず、学校側は知りつつも廃止しようとしないペ理事の一人が個人的に使いこんでいる位だもん。驚き着諸君！このような政治上のムダ使いはいくらでもあるのだ。「研究費」問題は氷山の一角にすぎない。それなのに学費値上げとは何というコザカシ事だ。我々から高い授業料をしぼり取って、それを個人的に着服している奴がいるのだ。その実幕は誰だ？我が野次馬新聞社は、その名前を知っている。それを発表するのは近日中に、この紙上で行いたい。それでは、さっきの問題に戻って他の部分を調べてみよう。順に書いてみると①コンピューター導入の時の汚職問題②60年安保闘争の時の学生対策費の使途をめぐる問題③裏口入学の問題と、その金を握った著名な教授連中の強もうけ主義④教授会内部へ特に商学部で明るく巨頭教授達の黒い本質。これである。紙面の都合上、今回は「研究費」問題だけで終ってしまったが、次号からは我が野次馬新聞社のモットーたる「ディスカバー明治」の通の千葉着諸君にドギツク迫っていきたい。では次号の予告……

次号予告。特集　裏口入学をめぐる著名な教授達の動向！

DISCOVER MEIJI

醜い明治大学と私 71'
（本社のモットーなのだ）